

「弟子の条件」

2015年09月30日

ルカによる福音書 14章 25節～33節。大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵はまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

主イエスの周りには、いつも熱狂する民衆が群がっていた。この日も同じ光景であったが、主イエスは突然、群がる民衆に振り向いて言われた。私の下に来るならば、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であっても、これらを憎み、捨てる者でなければ、私の弟子ではあり得ない。また、自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、誰も、私の弟子にはなり得ない。厳しい言葉である。

マルコ福音書に、最初の弟子になった漁師ペトロ、アンデレは、主イエスから召し出された時「すぐに網を捨てて従った」、また、ゼベダイの子ヤコブ、ヨハネ兄弟は「父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った」と記している。彼らは家族を捨て、仕事を捨て、主イエスに従っている。彼らの主イエスへの信従には、紆余曲折があったが、長寿を全うしたヨハネ以外は、60年代の迫害で殉教死したと伝えられている。十字架を背負って、文字通り命を献げ、弟子である条件を全て満たしている。キリスト教の歴史において、主イエスの勧め通りの信仰と生涯を全うした人々は大勢おられる。彼らが福音の生命を継承してきた。しかし、私たちにこの通りに求められると、困惑するであろう。最後の「自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない」という言葉を聞いて、ますます、弟子になることはできませんと言ってしまいそうになる。

この厳しい勧めをしている中で、二つの例えを語っている。一つは、塔を建てようとした時、建てるに十分な費用を持っていることを確認しなければ、途中で挫折し、人から笑われる。もう一つは、戦争を始める時、敵兵が2万人いて、自分の兵が1万人と分かたら、使節を送って和を求めるだろう。二つの例えは、事を起こす場合、準備をし、見通しをつけて始めよと言っている。主イエスの弟子になるためには、家族、自分の命をも捨て、十字架を背負って従うことだという勧めと、二つの例えは矛盾し、かみ合ったものとは思えない。主イエスに群がる民衆の無分別な熱狂を「冷ませ」という例えではないか。

主イエスの弟子になる条件は厳しい。言葉を薄める訳ではないが、文字通りに受け止めなくてもいい。主イエスに対して負わなければならない愛は、この世への愛を超えて、最優先すると諭した勧めであろう。